



2023年6月10日

継承センターのご家族の皆さまへ

ワシントン日本語継承センター（継承センター）理事会では毎年、当組織の現状、運営、今後の計画についてご報告しております。継承センターのご家族の皆さま、支援者の皆さま、提携組織、ワシントンメトロポリタンエリアの教育コミュニティからの変わらぬご支援に感謝申し上げます。ご意見やご提案などございましたら、ぜひお寄せください。

1. 在籍者数と教職員の状況:2022-23年度は、幼稚園年少から12年生までの132名の子供たちと、大人向けプログラムに16名の保護者生徒が在籍しました。2021年にさくら幼稚園が継承センターに合流して成功を収めた後、今年度は年少クラスプログラムを拡大しました。今年度は、ゼネラルマネージャーと、カリキュラムコーディネーター1名、教師7名、ティーチングアシスタント8名が指導にあたりました。さらに、財務担当1名、ウェブマスター1名、入学事務アシスタント1名を雇用しています。理事会には新たにアン・クレシーニ氏とスタイナー光恵氏をお迎えしました。
2. カリキュラムと学習メソッド:子供たちのクラスは11のホームルームに分かれ、多くのアクティビティがプロジェクトベースで生徒中心のカリキュラムによって進められました。実践的アクティビティと言語学習のバランスをとることで、生徒たちは日本語と日本文化を学び、自らの多文化アイデンティティを模索しました。低学年の生徒と高学年の生徒が共同でクラス活動を行う「縦割り」アプローチにより、継承センターコミュニティに対する生徒たちの帰属感が深まりました。継承センターはまた、継承ファミリーと卒業生を対象に、大人向け日本語プログラムの提供を引き続き行っています。これは家族ぐるみでの日本語学習への取り組みを進めていただくためのものであり、継承言語学習プログラムとして継承センターが果たす役割のひとつです。
3. 日本文化ワークショップと外部イベント:継承センターでは、日本の文化と伝統を学ぶために、運動会、餅つき、節分、桜餅づくり、和菓子づくり、鯉のぼりづくり、凧揚げ、将棋、茶道など、年間を通じてさまざまな活動を行いました。またスミソニアン博物館への全校遠足も行いました。「さくら祭り」では、ステージ上で生徒と保護者が歌を披露し、人気の文化展示テント



Washington Japanese Heritage Center (Keisho Center)

ワシントン日本語継承センター

keisho.org / P.O.Box 142 Cabin John, MD 20818

で対応にあたりました。2022-23年度は、北九州市立大学准教授のアン・クレシーニ先生と世界銀行の諏訪理氏を講師としてお招きしました。

4. 学力試験: 継承センターの生徒は、日本語学習をより豊かなものにするため、今年もいくつかの試験を受けました。漢字検定には14人、日本語能力試験 (JLPT) は6人、National Japanese Exam (NJE) は21人が受験しました。バーチャル・ジュニアジャパンボウルでは25人の生徒たちが全米各地の385人と競い、年齢層カテゴリーの中で継承センターの生徒1名が第一位を獲得しました。またJ.LIVE Talk日本語弁論大会では継承センターの生徒が銀メダルを獲得しました。国連国際学校俳句コンテストでは、数人の生徒が決勝ラウンドに進んでいます。さらに年賀状コンテストや、JICC (日本文化広報センター) での俳句と絵の展示にも参加しています。
5. 家族の関わり: ご家族の皆様のご支援に深く感謝申し上げます。継承センターは非常に豊かな学習体験を子供たちに提供できるのは、皆様のサポートの賜物です。2022-23年度、ご家族の皆様には、教室やその他のさまざまな活動で、延べ何百時間にもわたるボランティア時間を貢献していただきました。保護者ボランティアの方々により、書道、茶道、料理の指導や、イヤーズブックの制作、ポットラックの計画と運営、図書室の運営が行われました。あるおにぎり作りクラスは、世界飢餓対策キャンペーン「Onigiri Action」から「Most Creative Onigiri」賞を受賞しました。
6. パートナーシップ: 継承センターは、日本大使館、ワシントン日本商工会 (JCAW)、the Japan Foundation、ワシントンDC日米協会、その他多くの地域の非政府組織や学校と強いパートナーシップを維持しています。2022-23年度、継承センターは、JCAWから\$700、Japan Foundation Los Angeles (JFLA) から\$500の助成金給付を受けました。継承センターがJCAWから助成を受けるのは今回で4回目、JFLAからは3回目となります。継続的なご支援に感謝しております。
7. 授業料補助: 理事会では、どのご家庭にとっても経済的な懸念が入学の障害となることはないようにしたいと考えています。理事会は、経済的な困難に直面しているご家庭があることを認識しており、必要のあるご家庭には学費援助をご利用いただけるようにしたいと考えています。適用基準は、連邦の貧困基準ガイドラインの3倍の収入額を目安としていますが、ケ-



スパイクケースで酌量しています。学費援助に関する詳細は、理事や財務担当者、ゼネラルマネージャーに遠慮なくお尋ねください。すべてのお問い合わせの秘密は厳守されます。

8. 財務管理: 2004年の設立以来、継承センターの目標は、すべてのご家庭に、手ごろな費用で、公平に、質の高い教育を提供することです。継承センターは引き続き健全な財政を維持し、累積黒字を達成しています。コロナ禍後のさまざまな課題や、急激に変化する経済環境に対応するため、理事会では、継承センターの財務管理について徹底的かつ詳細な分析を行いました。その結果、インフレとコスト増加に対応するため、2023-2024年度の授業料を値上げする必要があるとの判断に至りました。また、優秀な人材を確保し、適切な報酬を提供するために、2023年には物価の上昇に伴う給与の引き上げを予定しています。きょうだい割引と一括払い割引、および大人向けプログラム受講者のインセンティブは、引き続き適用されます。当理事会は、今後も財務状況を注視し、必要に応じて対処していきます。2022-23年度の継承センターの運営予算実績は、末尾にまとめられています。財務を健全に管理しながら、すべてのご家庭に価値ある教育活動を提供し続けられるよう、引き続き取り組みを続けて参ります。

継承センターはこれからも成長し続け、変化し続けます。けれども、生徒たちが日本語と日本文化を生涯にわたって大切にできるよう育む、という継承センターの使命は変わりません。2024年にワシントン日本語継承センターは創立20周年を迎えます。理事一同、継承センターの業績と発展を誇りに思います。これからもコミュニティに貢献し、生徒とそのご家族、パートナーの皆さんと協力し合い、今後もコミュニティとして向上と発展を続けていくのを楽しみにしています。ご質問やご意見、ご提案などは、ぜひご遠慮なくお寄せください。

今後ともよろしく願いいたします。

継承センター理事



Washington Japanese Heritage Center (Keisho Center)

ワシントン日本語継承センター

keisho.org / P.O.Box 142 Cabin John, MD 20818

校長 宮島 智美

アン・クレシーニ

ドナルド・ハリソン

スタイナー光恵

マーガレット・ゴバディ

マーク・ヒツツィグ

吉川 恵夫

ピーター・ファレル

ケン・ナイト



Washington Japanese Heritage Center (Keisho Center)

ワシントン日本語継承センター

keisho.org / P.O.Box 142 Cabin John, MD 20818

	2022-2023年度 実績 (9月～8月)
収入 (単位: US \$)	予算
助成金	700
授業料	202,196
寄付	555
ファンドレージング	364
利息	181
その他の収入	1,724
小計	205,719
支出 (単位: US \$)	
給与	119,614
賃借料	42,203
遠隔教育	36
消耗品 (Tシャツを含む)	9,337
保険	6,063
一般運営費/諸費用	8,551
技能開発	1,400
授業料補助・授業料還付	6,054
謝礼、ギフトカード、寄付	1,613
その他の費用	605
小計	195,475
余剰金	10,244